

H28年度 指定管理者導入施設 管理運営評価シート（標準例）

1 評価対象施設の概要

施設名称	生駒山麓公園				
所在地	奈良県生駒市俵口町2088				
指定管理者名	モンパル あおはに共同体	指定期間	開始日	平成 26 年 7 月 1 日	
利用料金制適用区分			終了日	平成 36 年 6 月 30 日	
選定方法	非公募	評価実施年	指定期間 10 年のうち 3 年目		
設置目的	金剛生駒紀泉国定公園の緑豊かな自然環境の中で、市民の休息、鑑賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供される市内有数の公園で、ふれあいセンター、野外活動センター、フィールドアスレチック、テニスコートなど公園内に設置し、市民の福祉の増進と生活文化の向上に寄与することを目的としている。				
主な実施事業等	生駒山麓公園運営（指定管理＝公園部分、テニスコート。自主事業＝フィールドアスレチック、野外活動センター）、ふれあいセンター運営（指定管理＝温浴施設、研修室。自主事業＝レストラン、売店）、市民対象イベントの実施				

2 利用実績

利用区分等	単位	予定(計画・目標)	利用実績	対前年度比	増減の理由等
フィールドアスレチック	人		69580	0.97	
野外活動センター	人		41245	0.78	BBQ利用の受け入れ定員減少のため。
ふれあいセンター研修室	人		17395	0.94	
ふれあいセンター浴場	人		84497	1.38	平成27年度レジオネラ菌発生及び改修工事に伴う浴場閉鎖があったため。
テニス	人		25217	0.84	

3 事業収支

(千円)

		事業計画	事業報告(実績)	(参考)前年度実績
収入計	A	298,576	275,129	306,098
	指定管理料	170,662	171,246	172,282
	利用料金収入			
	自主事業収入	127,914	103,883	133,816
	その他			
支出計	B	298,576	282,199	300,339
	指定事業費	170,662	175,721	172,282
	うち人件費	43,200	47,573	39,173
	うち再委託料	45,100	56,154	66,883
	自主事業費	127,914	106,478	128,057
事業収支	A-B	0	-7,070	5,759
利用料金比率	C/A			
人件費比率	D/B	0.145	0.169	0.130
再委託費比率	E/B	0.151	0.199	0.223
補足説明(必要に応じて記入)				

※人件費(D)及び再委託料(E)は主な支出内訳のため、DとEの合計額が指定事業費にはなりません。

4 利用者の意見把握状況

利用者の意見把握の実施の有無	有	実施方法	利用者アンケート・意見箱の設置・その他()
実施結果	意見内容等		対応実績等
	①駐車場を増やして欲しい。 ②バスの本数を増やして欲しい。		①駐車場の区画整備を進め、駐車台数の増をはかった。 ②実際の運行状況(積み残し等)を確認した上で、直ちに対応すべき案件ではないと判断した。今後市と協議の上対応を検討したい。

5 管理運営状況評価

施設の設置目的の達成（有効性）	
施設の目的や特性等に合致した管理運営（事業計画に則った管理運営、施設の有効活用による設置目的の達成等）	
指定管理者による自己評価	施設機能を維持あるいは向上させるため、老朽化した建物・設備の修繕はもちろんのこと、園路柵の修理や枯死木の伐採など園内各所の美化や整備を進めた。花時計を中心に園内各所の植栽にも力を入れ、市民の憩いの場としての魅力を高めるようつとめている。
市の評価	園内各所の施設状況について注視し、順次修繕を行うことができた。また、植栽や花壇を利用することによって、緑豊かな公園の特長を活かし、魅力を高めることができています。
市民の平等な利用の確保（平等な利用への配慮、公平で適切な利用者の決定等）	
指定管理者による自己評価	条例、基本協定書等の施設運営の基盤となるルールの徹底につとめ、全ての利用者が同条件で施設を利用できるようにした。申込者が多数に上るテニスコートの利用に関しては、抽選会にて利用者を決定し公平性を維持した。
市の評価	指定管理者による自己評価のとおり、関係条例や基本協定書を適宜参照しながら、適切に管理運営を行うことができた。
利用者の満足度（利用者の意見把握結果による満足度の状況、意見等に対する取組状況、苦情等に対する対応等）	
指定管理者による自己評価	アンケートの集計結果より、およそ9割のお客様が施設に対して、“普通”あるいは“良い”という印象を持っており、満足度の高さがうかがわれる。お客様から寄せられた意見は、市と協議の上、優先順位をつけて対応を進めた。
市の評価	来園者からのご意見に対しては指定管理者と市で協議しながら、適切に対応することができた。今後は来園者からの“良い”という評価をより多くいただけるよう、より一層の努力をすること。
経費の縮減等の効果（効率性）	
経費の縮減等（経費縮減の具体的な取組、効果等）	
指定管理者による自己評価	限られた修繕費でより多くの箇所の修繕を行なうため、可能な限り設備担当及び営繕担当の職員で修繕にあたった。電力供給業者や除草委託業者を変更し、経費の大幅な削減に成功した。削減した経費は、警備品質に課題があった警備会社の見直しや利用者に近い位置にある枯死木の伐採など、サービスや安全性の向上にあてた。
市の評価	軽微な修繕を中心に職員で対応しており、経費節減に努めることができた。節減を行う中で、市民サービスの向上に繋がる投資は惜しまずに、指定管理業務に取り組むことができています。
収入の増加（収入増加の具体的な取組、効果等）	
指定管理者による自己評価	野外活動センターを中心に施設の美化や設備刷新を進め、お客様の満足度向上及びリピーターの増加をはかった。お客様の居心地の良さを追及して席数を減らした結果、収入が27年度を下回ってしまった。29年度は席数を元に戻した上で、さらなる質の向上をはかりたい。 ふれあいセンターにおいては、玄関に色とりどりの花を植栽した多数のプランターを設置し、施設の魅力向上に努めた。花の維持管理作業中に、施設利用者とは会話する機会が増え、浴場常連客の中には職員と一緒に園芸作業を楽しむ方が生まれている。環境の美化とともに、高齢者にとって安心のコミュニティとなるように、関心のある活動に参加できたり、豊かなコミュニケーションが生まれる関係性づくりを行うことで、利用者増に取り組んだ。
市の評価	自主事業収入増加について、工夫をしながら来園者の獲得にむけて取り組んでもらいたい。また、ふれあいセンターをはじめとした園内各施設は市民の憩いの場となっているので、引き続き利用者との信頼関係の構築に取り組み、市民と一体となって、生駒山麓公園の活性化に努めること。

適正な施設の管理運営（適正性）	
施設の管理運営の状況（適正な人員配置、従業員の能力・資質向上、広報活動、環境行動の取組状況、地域との連携等）	
指定管理者による自己評価	職員の大幅な入れ替えがあったが、適性に合った業務割振りをするこゝで、大きな問題なく運営に当たることができた。職員の資質向上により、従来外部委託していた専門性の高い業務（有害獣駆除・高木剪定等）を職員の手で行なうことができた。
市の評価	指定管理者職員の入れ替えについては引継ぎ等を滞りなく行うことができた。また、自己評価のとおり職員で実施可能な業務が増えているので、園内施設の不具合や市民からの要望への対応について円滑に行うことができています。
自主事業の取組（施設の有効活用による市民サービスの向上への効果等）	
指定管理者による自己評価	国立公園内に設置された当施設の特性を活かし、「森の探検」や「ツリーイング」など森林の中での環境学習や自然体験プログラムを充実させた。その結果、生駒市内のある小学校の学年全体に向けて実施した環境学習プログラムが、日常生活では味わえない体験や学びができたと好評であり、次年度のレポートにつながった。施設運営を通して、市民が生駒の自然の魅力を体験し、学びの機会を得るためのサービス創出に活用してきた。
市の評価	生駒山麓公園の自然豊かな特徴を活かした事業を行うことができています。今後も市と連携しながら創意工夫し、魅力ある事業の提案、実施を継続してもらいたい。
安全管理、危機管理体制等（個人情報保護、事故発生時の対応、危機管理体制等）	
指定管理者による自己評価	個人情報を含む書類は勤務終了後に金庫にて管理し、破棄する際にはシュレッダーを利用した。傷病者が発生した際に適切な応急処置ができるよう、職員の知識・技術の向上につとめた。事故内容は報告書にまとめて職員で共有するとともに、市と協議し再発の防止案を検討した。園内の危険箇所の洗い出しも行き、危険度の高い物から優先的に対応にあたった。
市の評価	個人情報に関しては適切に管理することができている。日頃から指定管理者が自主的に施設の点検を実施し、また、万一の事故発生時の対応についても、遅滞なく行うことができた。
サービスの安定的な提供（安定性）	
事業収支（自主事業を含む）の状況（事業収支の妥当性、安定的な事業継続等）	
指定管理者による自己評価	野外活動センターにおいて、指定管理者負担により設備の拡充をはかっている。質を向上させたことで維持管理費用が増加したため、事業継続のために必要に応じて値上げを実施したいと考えている。
市の評価	設備の拡充による施設の質向上は、今後も進めていただきたいと考えているが、山麓公園は市民の福祉の増進等を目的として設置されているため、利用料金の設定は現状を維持するよう努めること。

社会福祉施設に準じた評価	
施設の設置目的の達成（有効性）	
施設の目的や特性等に合致した管理運営（事業計画に則った管理運営、施設の有効活用による設置目的の達成等）	
指定管理者による自己評価	
公園内整備等業務やレストラン業務、厨房内での調理業務等を通じ、障害のある方それぞれの状況にあった福祉支援を提供している。社会生活における基本的なマナーやスキルの獲得は、このような実務を通じて行う支援で効果的に実施できている。また、工賃を得ることは社会参加の幅に大きな広がりがある。	
市の評価	
社会参加の促進に向け、利用者個々の状況にあわせた支援を実施し利用者の増加にもつながっていることは評価できる。引き続き、きめ細やかな取り組みをすすめられたい。	
利用者の満足度（利用者の意見把握結果による満足度の状況、意見等に対する取組状況、苦情等に対する対応等）	
指定管理者による自己評価	
利用者個人がいきいきと活動し生活できるととどまらず、保護者からも就労支援や福祉的な対応について満足の声をいただいている。また、当事業所の利用希望も市外、県外からもいただいている状態である。	
市の評価	
県内特別支援学校への案内や体験の受け入れ等利用者増加に向けての取り組みをすすめられている。また、一般就労にもつながったケースも評価できる。今後も、軽度から比較的重度の利用者まで幅広い就労支援を提供できるよう一層の環境整備に努められたい。	
適正な施設の管理運営（適正性）	
施設の管理運営の実施状況（適正な人員配置、従業員の能力・資質向上、広報活動、環境行動の取組状況、地域との連携等）	
指定管理者による自己評価	
充実した福祉支援の提供のために、法定職員配置数以上の職員を配置し、きめ細やかな対応を心掛けている。また、職員の支援技術向上のために、外部の専門研修等への参加を積極的に行っている。地域との連携として、飲食提供品の一部に地元産の原料、加工品を使用したり、イベントへの誘致を行っている。	
市の評価	
職員の配置数や研修等を通じ、さらに支援の充実に努めていただきたい。また、障がいを持つ方が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、市内福祉事業所との連携を強化し地域での支援体制の強化にも積極的に努められたい。	
安全管理、危機管理体制等（個人情報保護、事故発生時の対応、危機管理体制等）	
指定管理者による自己評価	
福祉サービス利用者の個人情報に関しても、個人情報保護法に則った管理を徹底し、不備なく実施している。また、傷病等発生時について協力医療機関との連携や、対応マニュアルを整備している。	
市の評価	
個人情報の管理にあたっては、生駒市個人情報保護条例等の規定に従い、適切な管理を行うこと。特に障がいを持つ方が利用者となるべき点で利用者の思いに寄り添い細心の注意を図られたい。また、事故対応や危機管理体制についても万全を期すこと。	

6 指定管理者の財務の状況

株式会社モンベル

非公表

社会福祉法人青葉仁会

(千円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
資産	3,606,493	3,867,263	4,004,695
流動資産	619,115	642,533	465,083
固定資産	2,987,378	3,224,730	3,539,612
負債	149,738	164,156	167,933
流動負債	149,738	164,156	167,933
固定負債			
純資産	3,456,756	3,703,108	3,836,765
資本金			
売上高	1,293,084	1,368,067	1,390,162
経常利益	238,380	264,782	201,108

7 指定管理者の経営状況（財務・資産関係指標）

株式会社モンベル

非公表

社会福祉法人青葉仁会

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
自己資本比率 純資産/資産×100	95.8%	95.7%	95.8%
負債比率 (流動負債+固定負債)/純資産×100	4.3%	4.4%	4.4%
固定比率 固定資産/純資産×100	86.4%	87.1%	92.3%
流動比率 流動資産/流動負債×100	413.5%	391.4%	276.9%
固定長期適合率 固定資産/(純資産+固定負債)×100	86.4%	87.0%	92.3%
総資産回転率 売上高/資産×100	35.9%	35.4%	34.7%
総資産経常利益率 経常利益/資産×100	6.6%	6.8%	5.0%

8 総合評価等（今後の業務改善に向けた考え方）

指定管理者による自己評価

利用者人数、事業収入ともに昨年度を下回る結果となった。職員の大幅な入れ替えに伴いイベント事業内容等に変更があったこと、野外活動センターの席数を減らしたことが原因ではないかと推察する。次年度からは経験を積んだ職員の手で運営が進められる上、席数も増加する。加えて、各職員の専門性を活かした体験プログラムの展開も予定している。施設の利便性と独自性を高め集客、収入ともに巻き返しをほかりたい。また、園内各所の美化や安全対策は着々と進めている。次年度も市と協議の上、老朽化した設備の改修や園内の美化に取り組み、来園者が心地よく過ごせる空間を作り上げたい。

市の評価

指定管理業務3年間で得たノウハウを活かして、基本協定書を履行し、関係法令を遵守しながら公園の活性化を図っていただきたい。

引き続き、指定管理業務と自主事業とを明確に区分し、モンベル・あおはに共同体が持つ、専門的かつ独自の知識や経験で創意工夫を凝らした取組を展開し、公園の魅力を高めること。また、専門性や独自性を高めた取組を継続すると同時に、老朽化した園内施設の改修時には今後の維持管理に係る負担軽減、公園利用者の利便性向上を考慮すること。